令和元年度　伊万里市立大坪小学校　学校評価計画

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
互いに認め合い、伝え合い、 つなぎ合う学校にしよう ～自己肯定感を高める教育を通して～	①　支持的風土の学年・学級経営の促進 ②　組織での指導体制の強化 ③　教職員の資質向上（授業力・学級経営力・服務意識・組織力等）の促進 ④　保護者・地域との連携（情報発信と相互の活用） ⑤　学習指導要領に即した教育課程の改善（年間指導計画の見直し） ⑥　学校予算の効率的活用（学校事務共同実施及び施設設備の充実・改善）

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3　目標・評価

①　支持的風土の学年・学級経営の促進

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	担当分掌（部）
教育活動	●心の教育	道徳教育の充実 〇心の教育３点セットの活用	・体験活動を生かした心に響く実践を行う。	・「いのちの教育指導資料」や「伊万里っ子しぐさ」、「童謡歌集」を生かした授業を全学級で実践し、ボランティア活動や心を育む「家読」を充実させる。	道徳
		人権・同和教育の充実	・授業内容の充実を図り、人権感覚の育成を図る。	・日常生活の問題等から教材を開発・工夫し、授業実践を行う。	人権・同和
		教育相談の充実	・保護者面談の他、医師、カウンセラー、スクールソーシャルワーカー、保健師、民生委員等関係機関との連携に努める。	・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の外部機関の効果的な活用など、教育相談機能の充実を図る。	教育相談
教育活動	●志を高める教育	〇夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・教育活動を通じて、児童が目標をもって実践し、振り返りをすることで自分の成長を感じることができるような機会を設ける。	・学校行事（体育大会や修学旅行等）や対外行事（相撲大会や陸上運動大会等）、発表会（伊万里秋祭りや公民館祭り等）などを通じて、個人で目標をもたせ、それをバックアップすることで成功体験を積ませる。	教務部
教育活動	●〇いじめ・不登校への対応	いじめ・不登校をなくす風土づくり いじめ・不登校に対応する体制づくり	・アンケートの実施や日常の観察等から、いじめの早期発見に努め、いじめ防止、不登校傾向、問題を抱える子への組織的な支援の充実を図る。	・毎月「心のアンケート」を実施し、早期発見に努める。 ・保護者、担任、生徒指導主任、教育相談担当、級外などの連携を密にし、組織としての支援を充実させる。 ・学校いじめ対策委員会において、支援の具体的方法について話し合う。	生徒指導
教育活動	特別支援教育	特別支援教育の推進	・児童の実態に即した具体的な支援の内容・在り方を探る。	・ケース会議で児童の実態を把握するとともに、対応について協議・共通理解をする。 ・学校全体の支援体制を整備する。 ・校内支援委員会の定例開催により、児童の現状を確認し、支援の方法を考え実践する。	特別支援C

②　組織での指導体制の強化

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	担当分掌（部）
学校運営	学校経営方針	学校教育目標、本年度の重点目標の周知	・教職員、児童、保護者に周知し、認知度を高める。	・多様な機会（職員会議、集会、保護者会、学校便り、学級便り等）を利用し、周知する。	教頭
学校運営	〇危機管理	〇通学路の安全点検及び安全指導	・通学路の点検や休日前の生活指導の充実を図る。	・毎月２０日の安全点検と、学期ごとに通学路の安全点検を実施する。 ・通学路については、保護者や地域の方にも危険箇所の確認をお願いし、危険箇所マップの改訂を行う。	生活
		〇食物アレルギー等への対応	・食物アレルギー対応が必要な児童の情報を職員全員が共有し、学校全体で組織的に対応する。	・食物アレルギーのある児童の一覧表を作成し、確実な把握とそれぞれの対応や薬の所在の共通理解を図る。 ・担任が不在でも適切に対応できるように、必ずアレルギーの情報を補欠者が確認する。	養護

③　教職員の資質向上（授業力・学級経営力・服務意識・組織力等）の促進

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	担当分掌（部）
教育活動	教職員の資質の向上	授業実践の向上	・校内研修を中心に、指導技術と授業づくりの力量を高める。	・校内研テーマに沿った授業実践や西部型授業の取組などを通して授業改善に努める。 ・研究授業と事後研を活性化させ、校内研究を核とした職員集団づくりを行う。	校内研
教育活動	●学力の向上	〇授業と家庭学習とのつながり	・毎日の家庭学習時間を確保させる。 ・「家勉」を推進する。 ・家庭学習調査を実施し、安定して家庭学習に取り組む児童を80％以上にする。	・家庭学習調査の集計の結果を個別指導に生かす。また、保護者と連携し、安定して家庭学習ができる環境をつくっていく。 ・「家勉」を奨励し、自主学習の習慣を定着させる。	校内研
		〇ICT利活用教育の推進	・パソコンや電子黒板等の機器を活用した授業力の向上に努める。 ・ICT機器を利活用した授業を計画的に実施する。	・職員研修会を行い、ICT利活用授業について研鑽できる機会とする。 ・電子黒板で活用する教材の充実を図り、日常的に活用できるようにする。	情報
		基礎学力の向上	・国語・算数の基礎的な学力を向上させる。 ・学習指導要領や教材に関する研究を積極的に行い、活用力向上と言語活動の充実を目指した授業を展開する。	・「学習のきまり」を活用し、学習習慣の確立を目指す。 ・大坪チャレンジ、思考力テスト、ICT利活用を通して、基礎基本の定着と活用力の向上を図る。 ・校内研等で活用力や言語活動に関する指導方法の検討を行い、授業実践に生かす。	学力向上C

④ 保護者・地域との連携（情報発信と相互の活用）

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	担当分掌（部）
学校運営	開かれた学校づくり	学校情報の公開	・学校便り、HP、学校安心メール等による学校情報の公開と内容の充実を図る。 ・各種行事等への保護者の参加率を昨年度より高める。	・定期的に学校便りを発行する。また、定期的にHPを更新したり、学校安心メールで情報発信したりする。 ・行事等に関する案内状を早期に配付し、保護者の予定が立てやすいように配慮する。 ・「学校安心メール」への保護者登録率95％以上をめざす。	教務 教頭
教育活動	○特色ある学校づくり	ふるさと学習の地域定着	・校区内や周辺に存在する社会教育施設や優れた教育資源を活用し、児童のふるさと学習の機会拡大を図る。	・図書館を使った「調べる学習コンクール」へ積極的に参加する。 ・地域の偉人から学び、行動する「森永エンゼルクラブ」の活動を充実させる。 ・地域への関心を高める、魅力ある事業を企画する。	総合
		地域や保護者とともにある学校の創造	・関係機関の指導や協力のもと、自助・共助の精神で教育環境の充実に努める。	・保護者・職員・児童の意見を反映させながら、魅力ある図書館経営に取り組む。	図書
		鼓笛隊・校歌等の取組の充実	・誇りを持って鼓笛隊の練習に参加する児童を育成する。 ・校歌に愛着を持ち大切にするとともに、童謡に親しむ学校をめざす。	・「心を一つに」を合い言葉に練習に取り組ませる。 ・明るく伸びやかに校歌を歌うことができるようにする。 ・童謡・唱歌を歌わせ、曲に親しませる。	鼓笛
教育活動	家庭教育力の向上	読書活動の充実（家読）	・育友会と連携して家読の推進に努める。 ・一人平均図書貸出数を昨年度比10%増を目指す。	・保護者・育友会と連携して、家読を推進するための「うちどくウィーク」を企画・実施する。	教頭

⑤ 学習指導要領に即した教育課程の改善（年間指導計画の見直し）

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	担当分掌（部）
教育活動	●健康・体つくり	○食育の充実	・バランスよく栄養をとることを心がけて食べる児童を育成する。	・栄養教諭と連携し、朝ごはんの重要性や望ましいおやつの摂り方等の指導をする。 ・給食や学級活動等を通して、偏食と食事マナーの改善を図る。	食育
		体力の保持・増進 衛生習慣の定着化	・体力向上のための計画的な場づくりを工夫する。 ・手洗い、うがい、歯磨きの徹底化を図る。	・水泳、マラソン、縄跳び週間等の期間を設定して、積極的に取り組ませる。 ・給食前の手洗いやうがい、給食後の歯磨きを毎日実践させる。	保体
教育活動	情報モラル教育	情報モラルの指導	・情報社会でのルールやマナーの遵守を図る。	・情報の発信や情報のやりとりをする場合のルールやマナーについて、発達段階に応じて指導を行う。 ・情報モラルについての講演会を行う。	情報
教育活動	外国語活動	外国語活動の推進	・高学年の外国語活動における授業展開や教材教具を工夫し、児童が生き生きと活動する授業づくりに努める。 ・ALTとの効果的な連携による授業づくりに努める。	・年間カリキュラムを作成し、ワークシートや視聴覚機器を生かした授業を実践する。 ・外国語専科教員の授業を参観し、今後の外国語教育の参考とする。 ・ALTとのTT授業展開を工夫する。	外国語

⑥ 学校予算の効率的活用（施設整備の充実・改善）

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	担当分掌（部）
学校運営	学校予算の活用	施設・設備の充実・改善	・児童が安全・安心で快適に過ごせる環境を整えるために、予算を含めた計画を進める。	・毎月の安全点検の結果を受け、市にはたらきかけたり、学校予算を効率的に運用したりしながら、学校環境を整える。	教頭 事務

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目（あれば記入）

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	担当分掌（部）
学校運営	○幼・保・小・中連携	幼保小連携の推進	・幼保小の交流を行い、相互理解に努める。	・職員研修に園職員を招き、園の経営方針や園児の現状等を学ぶ。 ・情報交換のための園訪問を行う。	教務
		小中連携の推進	・小中の情報交換会や授業交流を行い、相互理解に努める。 ・共通研究テーマのもと、伊中校区4校が連携して校内研を進める。	・情報交換会を年3回以上、交流授業を年1回以上実施する。 ・小中連絡協議会や合同校内研の機会を設け、活用力の向上に向けて研究と実践を進める。	教務
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○学校事務共同実施	・学校業務を改善し、教員が子どもと向き合う時間を確保できるよう工夫する。	・学校文書処理の標準化・効率化を行う。 ・学校徴収金事務について、校内調整を図りながら滞納者への対応や、業者への支払い等が円滑に行われるよう工夫する。	教頭 事務
		○業務改善プロジェクトの実施	・全職員参加による勤務体制の検討を行い、業務の明確化を図る。 ・具体的な改善策を実行し、業務の効率化を図る。	・業務改善案を計画し、職員に提案する。 ・職員研修で日常業務の在り方や、業務改善の取組について話し合う。 ・仕事の可視化と業務の省力化に取り組む。	総務

●は県の必須項目、○は市の共通評価項目